

滝川市内高等学校再編に関する まとめ

平成20年5月

滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議

平成19年9月に北海道教育委員会から、「公立高等学校配置計画（平成20年度～22年度）」が示され、空知北学区においては、「滝川市内の再編について職業学科の再編を含めた検討が必要」との提示がありました。

このことから、本検討市民会議では、市内3高等学校が滝川市及び空知北学区において果たすべき役割、並びに再編について、子どもたちにとって何が望ましいか、地域産業や地域社会のニーズにどう応えるかという視点を基本として、検討を行いました。

以下、その検討の結果について、次のとおりまとめました。

普通科及び職業学科を含めた市内3高等学校の再編については、次のように考えました。

- ① この地域は、交通の要衝として、また商業・工業の中心地として栄えてきました。そういった地域社会の要請に応えるため、技能や技術を持った即戦力として、子どもたちに着実に技術を習得させ、あるいは資格を取得させることを目指すという、職業人の育成が求められ、現行の職業学科の体制が作り上げられてきました。
- ② 市内3高等学校が、それぞれの歴史を背景として培われてきた進学あるいは資格取得といった役割・特色を出すことにより、

子どもたちに幅広く分かりやすい選択肢を提供し、より良い教育環境を提供する上で、現行の市内3校体制の維持が望ましい。

次に、現状の欠員状況、とりわけ滝川工業高等学校における欠員数の推移をみるときに、一義的には学級減の対象となるところである。しかしながら、滝川工業高等学校は、空知北学区唯一の工業科であり、管内には1万6千人の第2次産業従事者が就労していることから、近年の欠員数だけで単に学級減を行うことは、将来における地域のものづくりを基盤とした産業を支える人材を失うこととなる。さらに、札幌圏や旭川圏から本学区への技能・技術者の流入は考えづらく、とりわけ道立滝川高等技術専門学院の札幌校統合と相まって、建築土木系の人材育成機関が社会人を含めて皆無になることは、本学区の社会基盤整備を担う人材確保が難しくなり、この地域における産業経済の衰退が懸念されることから、地域の建設業界も危機感を持っている。このことは、地域を支える人づくりのための「ものづくり産業の人材育成」をうたう北海道の施策とも相容れないものである。

地域としては、滝川工業高等学校の多様な存続策を互いに協議するとともに、北海道として未来を拓く人材育成の拠点としての工業高校の位置付けを明確にすることを強く望むものである。

以上のことから、現時点における市内３高等学校のあり方については、３校体制の維持が子どもたちにとってより望ましい教育環境であると考えます。

今後も、様々な社会情勢の変化に対応した高等学校教育を目指すため、地域が一体となってその充実発展に努めていくものとする。

平成 20 年 5 月 22 日

滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議

委員長 土 居 幸 一

○委員名簿

委員長	土居幸一	滝川市生涯学習振興会専務理事
副委員長	後藤優司	滝川高等学校校長
副委員長	芳賀美津男	滝川西高等学校PTA会長 ※～平成20年3月
副委員長	清水敬治	滝川西高等学校PTA会長 ※平成20年4月～
副委員長	池上紘一	滝川工業高等学校同窓会幹事 ※～平成20年3月
副委員長	菊地崇之	滝川工業高等学校同窓会監査 ※平成20年4月～
常任理事	高野清志	滝川市校長会会長（明苑中学校校長）
常任理事	谷口正樹	滝川市PTA連合会代表
常任理事	渡邊恭久	滝川商工会議所会頭職務執行者副会頭
委員	野田富夫	滝川高等学校PTA代表
委員	松原章	滝川高等学校同窓会代表
委員	山田和雄	滝川西高等学校校長
委員	永見滋	滝川西高等学校同窓会監査
委員	廣瀬寛	滝川工業高等学校校長 ※～平成20年3月
委員	青木一明	滝川工業高等学校校長 ※平成20年4月～
委員	西田良文	滝川工業高等学校PTA会長
委員	川上慶博	江陵中学校校長 ※～平成20年3月
委員	宮川章	江陵中学校校長 ※平成20年4月～
委員	稲葉友季子	江陵中学校PTA副会長
委員	南和宏	明苑中学校PTA会長 ※～平成20年3月
委員	櫻間元朗	明苑中学校PTA会長 ※平成20年4月～
委員	吉田幸雄	開西中学校校長
委員	青木愼一	開西中学校PTA会長
委員	高瀬裕二	江部乙中学校校長 ※～平成20年3月
委員	河原政志	江部乙中学校校長 ※平成20年4月～

委 員	上 野 恭 敬	江部乙中学校PTA会長 ※～平成 20 年 3 月
委 員	山 内 康 裕	江部乙中学校PTA会長 ※平成 20 年 4 月～
委 員	西 田 裕 康	滝川市青少年育成会会長 ※～平成 20 年 4 月
委 員	矢 橋 栄 吉	滝川市青少年育成会監査 ※平成 20 年 5 月～
委 員	金 子 直 樹	連合北海道滝川地区連合会会長 ※～平成 20 年 3 月
委 員	西 野 修	連合北海道滝川地区連合会会長 ※平成 20 年 4 月～
委 員	渋 谷 洋	江部乙商工会理事
委 員	熊 谷 美由紀	滝川青年会議所理事長 ※～平成 20 年 1 月
委 員	稲 葉 了 大	滝川青年会議所理事長 ※平成 20 年 2 月～
委 員	本 間 登司夫	國學院短期大学コミュニケーション学科准教授

資 料 目 次

資 料 名		ページ
資料 1	滝川市内高等学校再編に関する検討結果報告書	1～5
資料 2	地域別検討協議会学区別検討資料（空知北学区）	6
資料 3	中卒者数推移	7
資料 4	空知北学区における職業学科の欠員状況	8
資料 5	欠員状況等一覧	9
資料 6	地元間口・地元進学率	10
資料 7	3 高校進路状況	11
資料 8	西高・工業高校の就職先（地域）	12
資料 9	産業分類別（15歳以上就業者）	13
資料 10	滝川工業高校進路	14～15
資料 11	市内中学生の進路状況	16
資料 12	空知北学区 学区の進学者の状況	17

滝川市内高等学校再編に関する 検討結果報告書

平成20年5月

滝川市高等学校教育推進検討小委員会

はじめに

少子化の進行に伴い、中学校卒業者数の減少は、空知北学区においては平成23年までに86名、平成27年までには193名が見込まれ、滝川市においては平成23年までに32名、平成27年までには50名が見込まれています。

北海道教育委員会から、本学区における間口調整について、平成23年に2～3学級の減、平成27年までには4～6学級の減を要すると示されており、さらに滝川市については「市内の再編について職業学科の再編を含めた検討が必要」ということが示されています。

当小委員会は、このような厳しい状況を踏まえ、市内高等学校教育の今後のあり方について、専門的な見地からその方向性を検討するために、滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議において設置されました。

以下、3回にわたる検討結果について報告いたします。

1 検討に当たっての基本的な視点

滝川市における高等学校教育の方向性について、北海道教育委員会から示されている「新たな高校教育に関する指針」、「公立高等学校配置計画（平成20年度～22年度）」などにおける考え方を参考にしながら、中学校卒業者数の減少という現実を踏まえて、市内3高等学校が滝川市及び空知北学区において果たすべき役割、並びに再編について、子どもたちにとって何が望ましいか、地域産業や地域社会のニーズにどう応えるかという視点を基本として、検討を行いました。

2 検討事項

小委員会では、滝川市内3高等学校の再編について、具体的には次の3つの形態にしぼり議論を行ってまいりました。

(1) 総合学科（滝川西高等学校と滝川工業高等学校による場合）

メリット	・単位制による早い段階からの生徒の自発的な学習意欲が向上する。 ・各系列から自己のニーズに応じた科目選択が可能である。 ・ガイダンス機能の充実によるきめ細かな進路指導が実施できる。 ・少人数教育によるきめ細かな指導が実現できる。 ・北海道教育委員会の学区内に1校総合学科を設置しようという推進方針と一致（新しいタイプの高校の推進）する。
デメリット	・滝川市においては、職業学科による積み上げ型の技術習得や資格取得ということが望まれていることから、総合学科はなじまない。 ・滝川市においては、系列の細分及び特色等が出しにくい。 ・教員の人的負担に頼った運営となりやすい。 ・都市部と異なり、外部講師の確保が容易でない。 ・他学区の例において、生徒の志望動機が、総合学科だからではなく成績がその学校に適合するからという傾向もみられる。

デメリット	・総合学科における商業系列や工業系列を卒業しても、職業学科と異なり、企業において資格取得及び再教育の必要性が高くなる。 ・初期に大きな整備費用を要する。
-------	---

(2) 学科集合型校（滝川工業高等学校施設の産業キャンパス活用）

① 滝川高等学校と滝川工業高等学校による場合

② 滝川西高等学校と滝川工業高等学校による場合

メリット	共通	・異なった学科間の連携による、多様な選択履修や施設設備の効率的な活用が可能である。 ・北海道工業高等学校長会において、工業科の単科校での維持が困難な場合は次善策とされている。 ・滝川工業高等学校の現施設・設備を産業キャンパスとすることにより i) 単科校と同水準の施設・設備の保持が可能である。 ii) 初期整備費用の縮減が計れる。
デメリット	共通	・学科集合型は、もともと単科校が困難である場合の次善策という要素が大きく、現在滝川市のおかれている状況下では、単科校の維持が望まれる。 ・工業科専門の教員の減少による専門性が低減する。 ・産業キャンパス化により、遠隔地での実習を行う非効率性が生じる。 ・普通科志向の強い滝川高等学校と、滝川西高等学校が特に職業学科志向の強い滝川工業高等学校と統合する場合、学校として目標とする理念が異なり、学校経営がより複雑となる。 ・6又は7間口校と3間口校の統合により大規模校となることから、適正規模校（4～8間口）への調整を要する。
	①	・進学校としての滝川高等学校の学力への影響が懸念される。
	②	・職業学科の中でも特に専門性の高い工業科との統合により、学校経営バランスへの影響が懸念される。 ・工業科の施設・設備の維持にかかる財政負担を要する。

(3) 滝川工業高等学校の単科校維持による3校体制

メリット	・市内のみならず学区内で唯一の工業科であることから、地域の第2次産業を支える人材育成という観点で、現状で最も専門性を発揮しやすい工業科単科校がこの地域にとって望ましい。 ・工業科単科校の強い就職率・推薦進学率の保持が可能である。 ・産業キャンパスと異なり1校内で効率的な運営が可能である。 ・現在の市内3校におけるそれぞれの役割分担により、子どもたちにとって幅広く分りやすい選択肢の提供が可能である。 ・現時点での滝川工業高等学校土木科を除いた各校の状況を踏まえると、地域性を生かした良好な学校経営となっている。 ・工業科という新しい環境において、中学校卒業時までに勉強に苦手意識を覚えている子どもに再チャレンジの道が拓ける。
------	--

	・特に工業科の卒業生は、就職後３年間における離職率が低い。
デメリット	・今後の生徒数減少により現状の３校によるバランスが保持困難となるおそれがある。 ・特に滝川工業高等学校の間口減は、今年度示されてもおかしくない状況であり、その場合に北海道教育委員会による統廃合の可能性も生じる。

３ 結論

小委員会において、滝川市内における高等学校の職業学科を含めた再編について、専門的な見地から検討を行った結果、以下の結論に至りました。

（１）普通科および職業学科を含めた３校の再編については、次のように考えられる。

① 総合学科は、子どもたちの幅広い進路希望に対応できる反面、専門性の高い積み上げ型の学習ニーズへの対応が難しい。この地域においては、子どもたちに着実に技術を習得させ、あるいは、資格を取得させることを目指すという、即戦力となる職業人の育成が求められ、現行の職業学科の体制が作り上げられてきた。

これらのことから、滝川市においては総合学科の導入については、なじまないと考える。

② 学科集合型は、将来的な状況の変化において検討の余地が残るものの、もともと単科校の維持が困難である場合という要素が大きく、滝川市においては現時点では、子どもたちにより良い教育環境を提供する上で、工業科単科校維持による現行の３校体制の維持が望まれる。

（２）次に、現状の欠員状況、とりわけ滝川工業高等学校における欠員数の推移をみると、一義的には学級減の対象となるところである。しかしながら、滝川工業高等学校は、空知北学区唯一の工業科であり、管内には１万６千人の第２次産業従事者が就労していることから、近年の欠員数だけで単に学級減を行うことは、将来における地域のものづくりを基盤とした産業を支える人材を失うこととなる。さらに、札幌圏や旭川圏から本学区への技能・技術者の流入は考えづらく、とりわけ道立滝川高等技術専門学院の札幌校統合と相まって、建築土木系の人材育成機関が社会人を含めて皆無になることは、本学区の社会基盤整備を担う人材確保が難しくなり、この地域における産業経済の衰退が懸念されることから、地域の建設業界も危機感を持っている。このことは、地域を支える人づくりのための「ものづくり産業の人材育成」をうたう北海道の施策とも相容れないものである。

地域としては、滝川工業高等学校の多様な存続策を互いに協議するとともに、北海道として未来を拓く人材育成の拠点としての工業高校の位置付けを明確に行うことを強く望むものである。

おわりに

以上のことから、現時点における市内３高等学校のあり方については、３校体制の維持が子どもたちにとってより望ましい教育環境であると考ええる。

今後も、様々な社会情勢の変化に対応した高等学校教育を目指すため、地域が一体となってその充実発展に努めるものとする。

○小委員会名簿

委員長	土	居	幸	一	滝川市生涯学習振興会専務理事
	後	藤	優	司	滝川高等学校校長
	山	田	和	雄	滝川西高等学校校長
	廣	瀬		覚	滝川工業高等学校校長 ※～平成 20 年 3 月
	青	木	一	明	滝川工業高等学校校長 ※平成 20 年 4 月～
	渡	邊	恭	久	滝川商工会議所会頭職務執行者副会頭
	谷	口	正	樹	滝川市 P T A 連合会代表
	吉	田	幸	雄	開西中学校校長
	高	瀬	裕	二	江部乙中学校校長 ※～平成 20 年 3 月
	河	原	政	志	江部乙中学校校長 ※平成 20 年 4 月～

○小委員会開催日

- 第1回 平成 20 年 2 月 14 日
- 第2回 平成 20 年 4 月 24 日
- 第3回 平成 20 年 5 月 20 日

地域別検討協議会学区別検討資料(空知北学区)

空知北学区高校配置計画の見込み										
区分	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	H 2 7	計	
学区内中卒者数	1,396	1,363	1,405	1,310	1,253	1,227	1,207	1,203	▲ 193	
対前年増減		▲ 33	42	▲ 95	▲ 57	▲ 26	▲ 20	▲ 4		
滝川市中卒者数	(410)	(395)	(419)	(378)	(396)	(364)	(369)	(360)	▲ 50	
対前年増減		▲ 14	23	▲ 41	18	▲ 32	5	▲ 9		
学校名	平成20年度の状況 学科及び募集学級数 普通 職業 計				◎欠員	平成21年度	平成22年度	平成23年度 の見通し	平成24～27年度までの見通し	計
滝 川	6		6	6				○2～3学級の減	○2～3学級の減	○4～6学級の減
滝川工業		工 3	3	32						
*滝川西	3	商 4	7	-2						
単 砂 川	4		4	14						
奈井江商業		商 2	2	33						
新十津川農業		農 1	1	13						
芦 別	4	商 1	5	60						
赤 平	1		1	2						
深 川 西	4		4	5						
深 川 東		農・商 4	4	28						
10校	22	15	37	191						

注1 学科種別の「普通」には、普通科のほか、総合学科、理数、外国語、体育等の専門学科を含む。

※2 学校名の「単」は全日制普通科単位制、「総」は総合学科単位制、「中高」は連携型中高一貫教育校、「地」は地域キャンパス校。

注3 学校名の*は市町村立学校。

注4 ()は定時制の課程の学校(計欄には含まない、関係学校のみ表示)。

学区の検討事項と現状・課題	
学区の検討事項	現状・課題
○中卒者の減少に対応した高校配置のあり方	・ H 2 3 に中卒者が 9 5 人減少し、欠員を生じている学校も多く、H 2 7 までにはさらに中卒者が 1 0 7 人減少することが見込まれるため、定員調整について検討が必要 ・ 滝川市内の再編について職業学科の再編を含めた検討が必要
○ 2 学級以下の小規模校のあり方	・ 欠員を生じている学校も多く、今後の中卒者数の減少により各校の更なる小規模化が懸念されるため、小規模校の配置のあり方も含めた検討が必要。

○資料3 「中卒者数推移」

区分	H20	H21	H22	H23	H23-20
滝川市	410	396	419	378	
前年比		▲ 14	23	▲ 41	▲ 32
砂川市	159	154	152	153	
		▲ 5	▲ 2	1	▲ 6
歌志内市	34	41	30	30	
		7	▲ 11	0	▲ 4
奈井江町	37	72	50	48	
		35	▲ 22	▲ 2	11
上砂川町	32	28	30	29	
		▲ 4	2	▲ 1	▲ 3
浦臼町	18	19	17	19	
		1	▲ 2	2	1
新十津川町	57	71	74	64	
		14	3	▲ 10	7
雨竜町	25	31	33	33	
		6	2	0	8
芦別市	152	135	171	143	
		▲ 17	36	▲ 28	▲ 9
赤平市	117	86	108	92	
		▲ 31	22	▲ 16	▲ 25
深川市	233	202	202	204	
		▲ 31	0	2	▲ 29
妹背牛町	26	36	28	40	
		10	▲ 8	12	14
秩父別町	28	31	24	20	
		3	▲ 7	▲ 4	▲ 8
北竜町	23	18	25	22	
		▲ 5	7	▲ 3	▲ 1
沼田町	38	34	34	27	
		▲ 4	0	▲ 7	▲ 11
幌加内町	7	9	8	8	
		2	▲ 1	0	1
計	1, 396	1, 363	1, 405	1, 310	▲ 86
		▲ 33	42	▲ 95	

滝川市		▲ 14	23	▲ 41	▲ 32
滝川市以外		▲ 19	19	▲ 54	▲ 54
北学区計		▲ 33	42	▲ 95	▲ 86

H24	H25	H26	H27	H27-23	H27-20
396	364	369	360		
18	▲ 32	5	▲ 9	▲ 18	▲ 50
147	146	176	151		
▲ 6	▲ 1	30	▲ 25	▲ 2	▲ 8
26	23	25	19		
▲ 4	▲ 3	2	▲ 6	▲ 11	▲ 15
54	59	53	58		
6	5	▲ 6	5	10	21
29	33	20	23		
0	4	▲ 13	3	▲ 6	▲ 9
22	16	20	15		
3	▲ 6	4	▲ 5	▲ 4	▲ 3
61	69	67	71		
▲ 3	8	▲ 2	4	7	14
24	29	25	25		
▲ 9	5	▲ 4	0	▲ 8	0
122	115	115	118		
▲ 21	▲ 7	0	3	▲ 25	▲ 34
80	79	81	85		
▲ 12	▲ 1	2	4	▲ 7	▲ 32
179	195	155	169		
▲ 25	16	▲ 40	14	▲ 35	▲ 64
25	28	26	34		
▲ 15	3	▲ 2	8	▲ 6	8
33	18	24	16		
13	▲ 15	6	▲ 8	▲ 4	▲ 12
21	15	24	22		
▲ 1	▲ 6	9	▲ 2	0	▲ 1
28	28	15	26		
1	0	▲ 13	11	▲ 1	▲ 12
6	10	12	11		
▲ 2	4	2	▲ 1	3	4
1, 253	1, 227	1, 207	1, 203	▲ 107	▲ 193
▲ 57	▲ 26	▲ 20	▲ 4		

18	▲ 32	5	▲ 9	▲ 18	▲ 50
▲ 75	6	▲ 25	5	▲ 89	▲ 143
▲ 57	▲ 26	▲ 20	▲ 4	▲ 107	▲ 193

○資料４「空知北学区における職業学科の欠員状況」

学 校 名	学科名	H15	H16	H17	H18	H19	H20
滝 川 工 業	電 子 機 械	0	0	0	0	▲ 1	0
	電 気	+2	+1	0	▲ 3	▲18	▲ 3
	土 木	▲11	▲27	▲22	▲33	▲31	▲29
	計	▲9	▲26	▲22	▲36	▲50	▲32
滝 川 西	会計ビヅ 収	▲16	+2	0	0	+1	+1
	情報ビヅ 収	▲13	+1	0	0	+1	+1
	計	▲29	+3	0	0	+2	+2
奈 井 江 商 業	商 業	▲22	▲16	▲16	▲15	▲13	▲16
	情 報 処 理	▲15	▲19	▲11	▲ 3	▲15	▲17
	計	▲37	▲35	▲27	▲18	▲28	▲33
新十津川農業	農業・生活	▲ 9	▲11	▲ 1	▲ 7	▲ 6	▲13
※ 芦 別	情報ビヅ 収	▲30	▲ 4	▲ 7	▲17	▲20	▲22
※ 深 川 東	生産科学	▲17	▲23	▲26	▲20	▲16	▲19
	流通経済	▲ 4	▲22	0	▲ 2	▲18	▲ 8
	情 報 処 理	▲18	▲20	▲ 1	▲ 7	▲ 5	▲ 1
	計	▲39	▲65	▲27	▲29	▲39	▲28
妹背牛商業	商 業	▲29	▲ 7	▲14	▲10		
職 業 科 合 計		▲ 182	▲ 145	▲98	▲117	▲141	▲126
普 通 科 合 計		▲ 128	▲ 78	▲ 74	▲ 86	▲ 66	▲ 65
欠員に占める職業科の割合		58.7%	65.0%	57.0%	57.6%	68.1%	66.0%

※印は、H15 以降に再編等のあった学校

○資料5 「欠員状況等一覧」

学校名	学科名	募集人員	間口	出願者数			欠員者数		
				H18	H19	H20	H18	H19	H20
滝川	普通科	240→ 200(H20)	5	241	252	203	▲1	0	▲6
	理数	40	1	40	40	33			
滝川西	普通科	120	3	125	123	119	0	3	2
	会計ビジネス	80	2	75	85	89			
	情報ビジネス	80	2	90	92	85			
滝川工業	電子機械	40	1	57	39	58	▲36	▲50	▲32
	電気	40	1	19	21	21			
	土木	40	1	7	10	9			
砂川	普通科	160	4	128	139	141	▲28	▲12	▲14
奈井江商業	商業	40	1	24	26	22	▲18	▲28	▲33
	情報処理	40	1	34	24	22			
新十津川農業	農業・生活	40	1	33	30	27	▲7	▲6	▲13
芦別	普通科	160	4	132	124	123	▲45	▲52	▲60
	情報ビジネス	40	1	22	19	18			
赤平	普通科	40	1	37	41	36	▲3	1	▲2
深川西	普通科	160	4	168	169	157	1	0	▲5
深川東	生産科学	40	1	20	23	18	▲29	▲39	▲28
	流通経済	80	2	76	54	67			
	情報処理	40	1	28	36	39			
※参考 美唄工業	電子機械	40	1	42	19	35	▲44	▲58	▲52
	電気システム	40	1	19	27	20			
	建築	40	1	15	15	8			

○資料6 「地元間口・地元進学率」

H17

	定員 A	中卒者数 B	地元間口率 A／B (%)	A-B	地元進学者数 C	地元進学率 C／B (%)	B－C
滝川	680	451	150.8	229	336	74.5	115
砂川	160	165	97.0	▲ 5	59	35.8	106
奈井江	80	69	115.9	11	10	14.5	59
新十津川	40	78	51.3	▲ 38	13	16.7	65
芦別	200	174	114.9	26	147	84.5	27
赤平	40	92	43.5	▲ 52	11	12.0	81
深川	320	225	142.2	95	152	67.6	73
沼田	40	39	102.6	1	11	28.2	28

H18

	定員 A	中卒者数 B	地元間口率 A／B (%)	A-B	地元進学者数 C	地元進学率 C／B (%)	B－C
滝川	680	422	161.1	258	313	74.2	109
砂川	160	194	82.5	▲ 34	55	28.4	139
奈井江	80	59	135.6	21	17	28.8	42
新十津川	40	70	57.1	▲ 30	7	10.0	63
芦別	200	163	122.7	37	125	76.7	38
赤平	40	104	38.5	▲ 64	36	34.6	68
深川	320	219	146.1	101	147	67.1	72
沼田	40	44	90.9	▲ 4	8	18.2	36

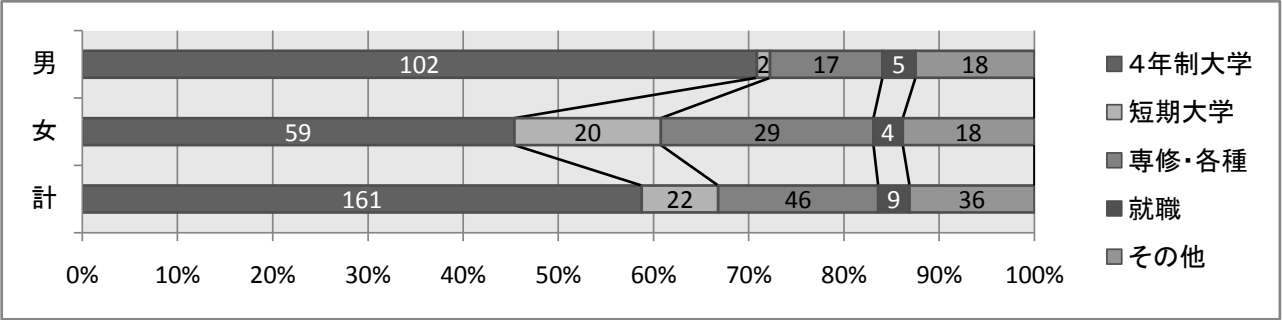
○各市町の地元間口率推移

	H19	H20	H21	H22	H23	H27	平均
滝川	160.8	156.1	161.6	152.7	169.3	177.8	163.1
砂川	85.1	100.6	103.9	105.3	104.6	106.0	100.9
奈井江	148.1	216.2	111.1	160.0	166.7	137.9	156.7
新十津川	61.5	70.2	56.3	54.1	62.5	56.3	60.2
芦別	127.4	131.6	148.1	117.0	139.9	169.5	138.9
赤平	41.2	34.2	46.5	37.0	43.5	47.1	41.6
深川	155.3	137.3	158.4	158.4	156.9	189.3	159.3

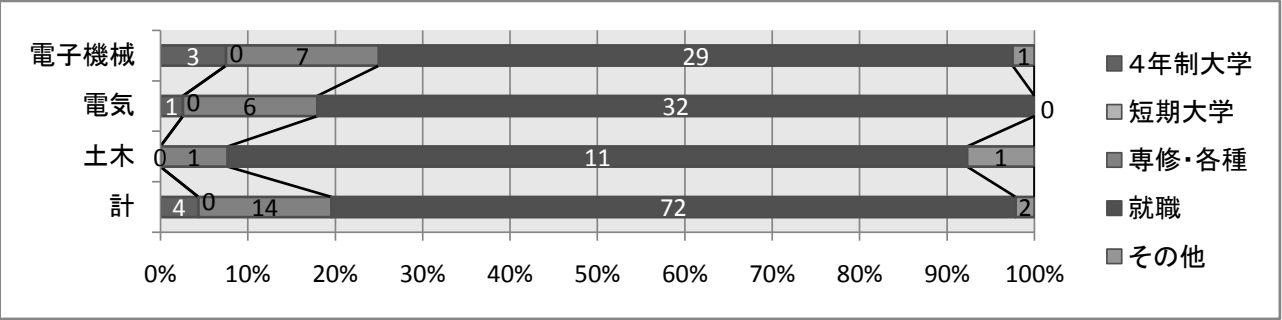
○資料 7 「3 高校進路状況」

(平成20年2月データ)

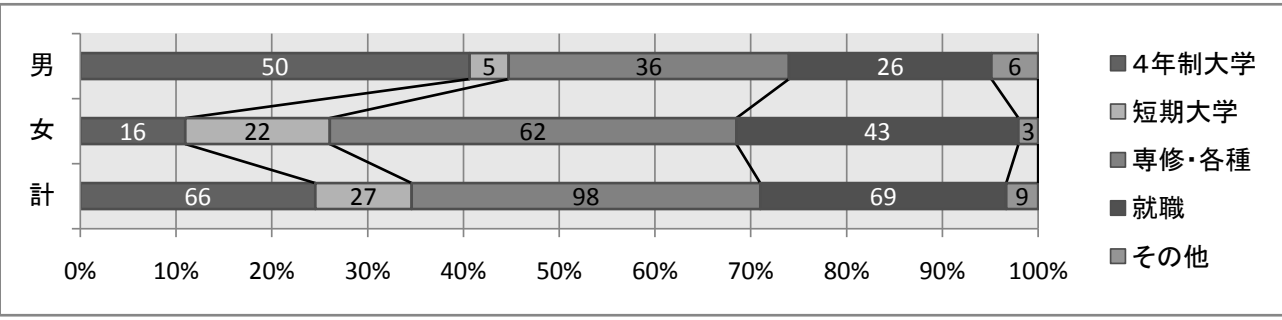
滝川高校



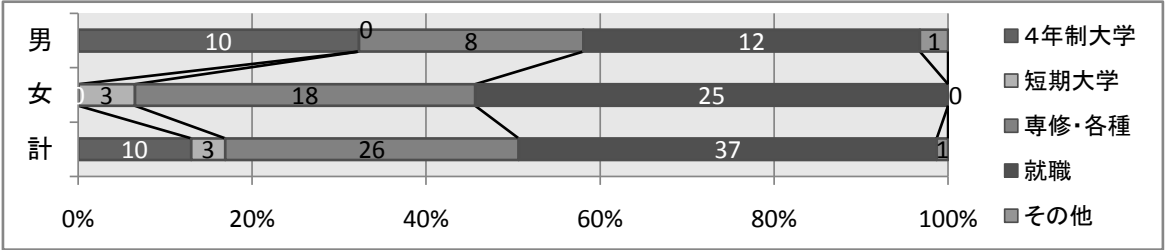
滝川工業高校



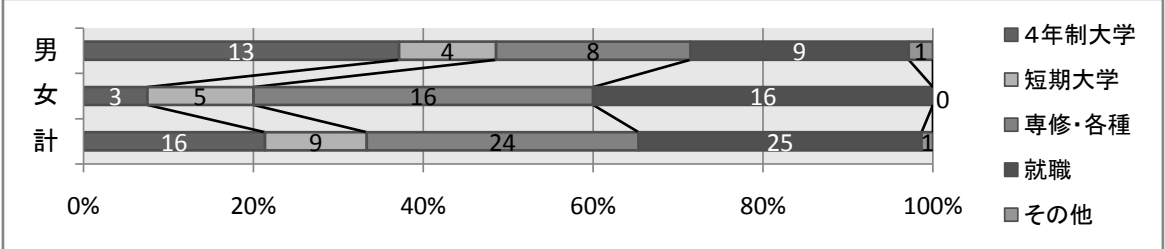
滝川西高校



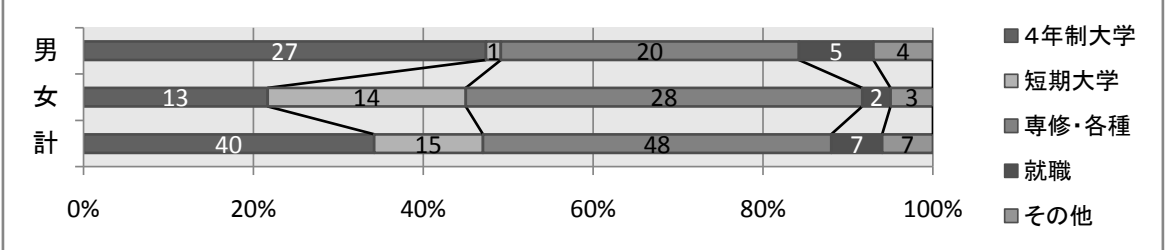
会計ビジネス科



情報ビジネス科

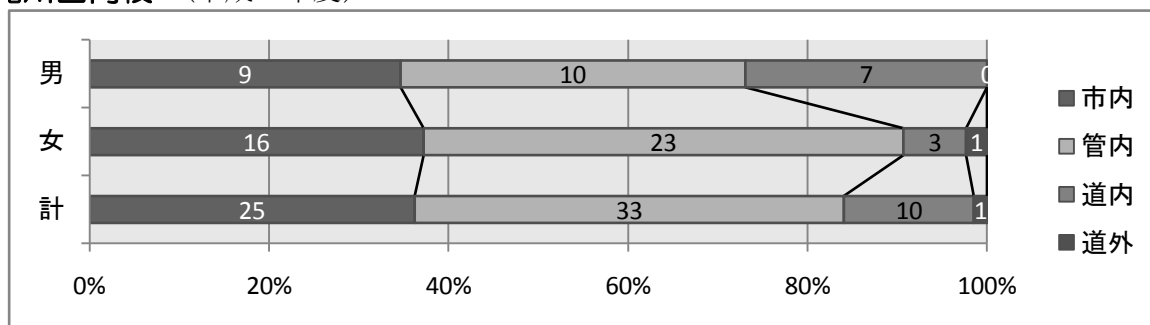


普通科

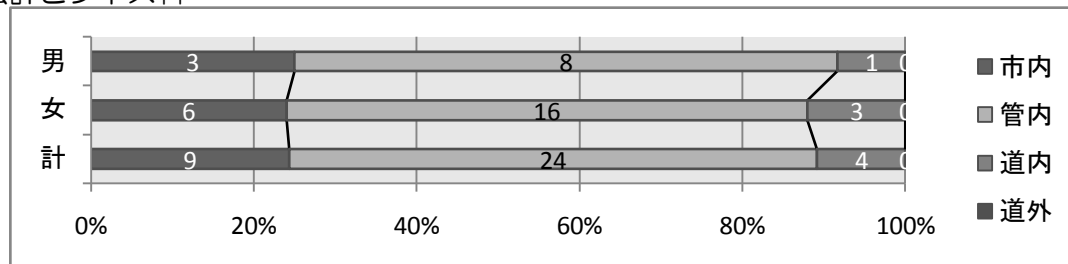


○資料8「西高・工業高校の就職先（地域）」

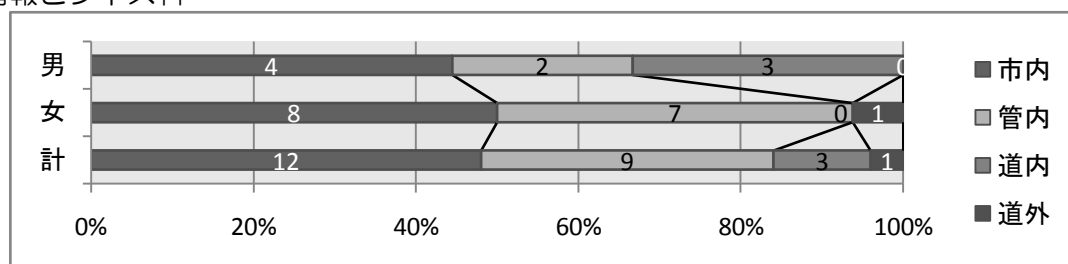
滝川西高校（平成19年度）



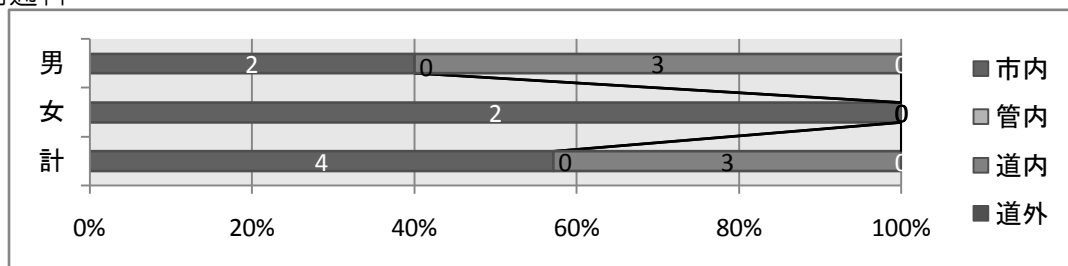
会計ビジネス科



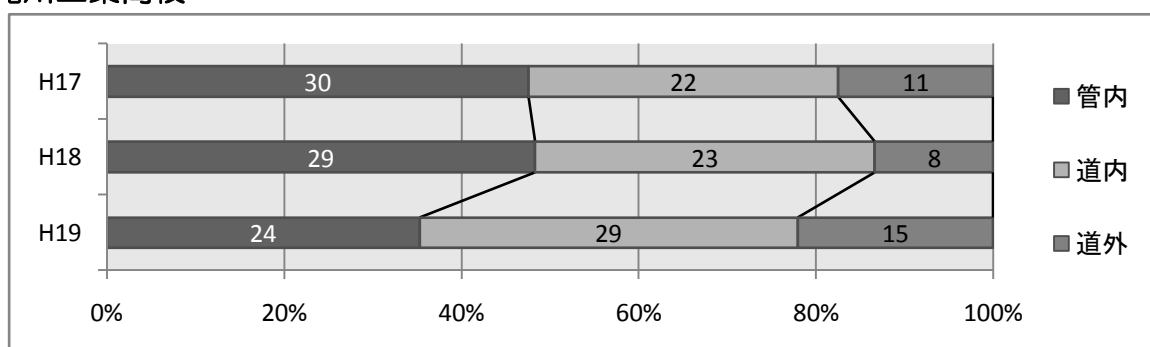
情報ビジネス科



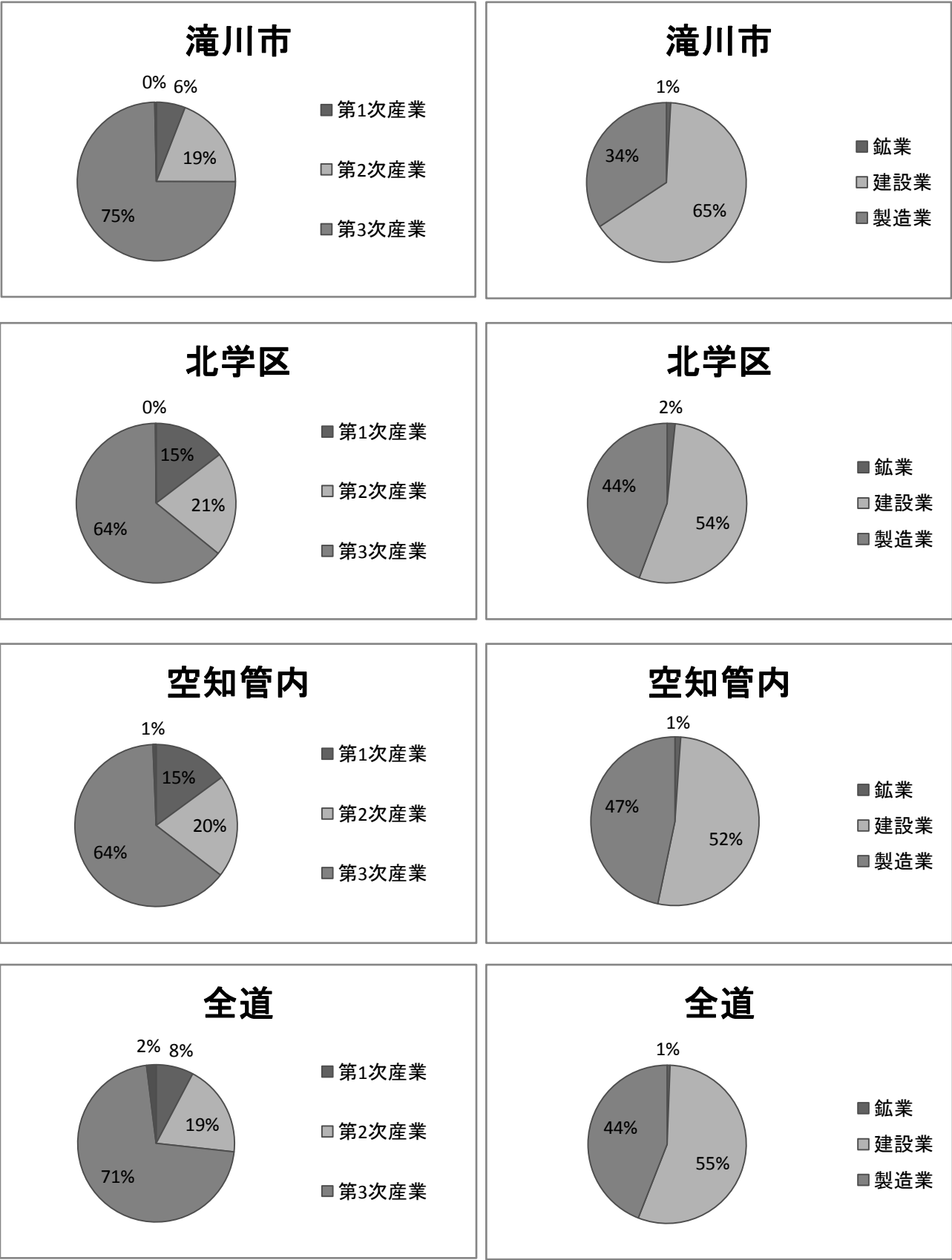
普通科



滝川工業高校



○資料 9 「産業分類別（15歳以上就業者）」



○資料１０「滝川工業高校進路」

(１) 進学・就職の状況

		就職			進学				未定			合計
		管内	道内	道外	大学	短大	専修	訓練	就未	進未	自己	
H19	人数	23	29	14	5	0	13	1	4	1	4	94
		66			19				9			
	割合%	24.5	30.9	14.9	5.3	0.0	13.8	1.1	4.3	1.1	4.3	100
		70.2			19.1				11.7			
		36.9	41.5	21.5								100
H18	人数	29	23	8	4	1	19	2	0	0	0	86
		60			26				0			
	割合%	33.7	26.7	9.3	4.7	1.2	22.1	2.3	0.0	0.0	0.0	100
		69.8			30.2				0.0			
		48.3	38.3	13.3								100
H17	人数	30	22	11	6	4	24	2	1	2	3	105
		63			36				6			
	割合%	28.6	21.0	10.5	5.7	3.8	22.9	1.9	1.0	1.9	2.9	100
		60.0			34.3				5.7			
		47.6	34.9	17.5								100

(２) 進路タイプ別進路状況

Aタイプ：実践的技能士を目指す

A1：工業系の職種に就職する生徒

A2：工業系の専門学校等に進学する生徒

Bタイプ：実践的技術者を目指す

B1：工科系大学等に進学する生徒

Cタイプ：堅実な職業人を目指す

C1：工業系以外の職種に就職する生徒

C2：工科系以外の大学等に進学する生徒

C3：工業系以外の専門学校等に進学する生徒

		H19				H18				H17			
		人数		割合		人数		割合		人数		割合	
A	A1	50	59	58.8	69.4	47	61	54.7	70.9	47	60	47.0	60.0
	A2	9		10.6		14		16.3		13		13.0	
B	B1	4	4	4.7	4.7	3	3	3.5	3.5	8	8	8.0	8.0
C	C1	16	22	18.8	25.9	13	22	15.1	25.6	16	32	16.0	32.0
	C2	2		2.4		2		2.3		4		4.0	
	C3	4		4.7		7		8.1		12		12.0	
合計		85		100.0		86		100.0		100		100.0	

区分	地域 学校種	進路先	進路タイプ
就職	管内	北興化学工業(株)北海道工場、増原工務店、(株)上田コンクリート工業所(2名)、 昌運工業(株)北海道支社(2名)、(株)川上鐵工製作所、(株)サンテックス、北洋 化業(株)、(株)弘盛電工(2名)、北海道住電精密(株)(2名)、(株) キムラ工業、日研ツール(株)北海道製作所、東邦金属(株)深川工場、赤平製 紙(株)、(有)日進電工社、佐藤鑄工(株)、寺田硝子店、カワテックス	A1
		(株)食創、(株)マツオ	C1
	道内	(株)ドウデン、(株)第一エンジニアリング、(株)北海道ジーエス・ユアササービス、 ナカ工業(株)、上原子塗装工業(株)、新日本製鐵(株)棒線事業部室蘭製鐵 所、鐵和電設(株)、京浜精密工業(株)北海道工場、北海道日立ソリューションズ、 シチズンタ張、コマツ北海道(株)、北海道パワーエンジニアリング(2名)、 (株)オセキ北海道、ほくでんサービス(株)、雪印乳業(株)本社、	A1
		大友産業、セック(株)札幌営業所、カラカミ観光(株)洞爺パークホテル、勝木石 油(株)、自衛隊(9名)	C1
	道外	横河東亜工業株式会社、日野自動車株式会社(2名)、東京電力(株)多 摩支店、トヨタ自動車(株)(2名)、(株)東郷製作所、トビー工業(株)豊橋製造所、 東洋ガラス(株)川崎工場、旭化成ケミカルズ(株)川崎製造所、ナカ工業 (株)(2名)、(株)細川洋行生産事業部	A1
		(株)にしけい東京支社	C1
進学	大学	防衛大学校(理工学専攻)、北見工業大学(機械・社会環境系)、北海道工 業大学(機械システム工学科)(2名)、	B1
		北海学園大学(人文学部日本文化学科)	C2
	専修	北海道中央コンピュータカレッジ(2名)、北日本自動車工学専門学校(3 名)、日本航空専門学校(航空技術工学科)(2名)、日本工学院北海道専 門学校(電子機械・CADコース)、	A2
		吉田学園情報ビジネス専門学校(2名)、札幌福祉専門学校(医薬福祉科)、 札幌社会福祉専門学校(医薬福祉科)、経専音楽放送芸術専門学校(サウンド・ システム科)	C3
	訓練校	滝川高等技術専門学院(電気工事科)	A2

○資料11「市内中学生の進路状況」

(平成20年3月卒業生)

	全 日 制										定時制 (滝川高 校)	工業高専 ・ 聾学 校 養護・高 等専修等 各種	就職 その他
	滝川西高校			滝川高校		滝川工業高校			市外の 公立高校	市外の 私立高校			
	普通	会計 ^ビ ジ ^制	情報 ^ビ ジ ^制	理数	普通	電子機械	電気	土木					
江陵中学校	28	16	17	3	28	19	5	2	24	2	2	1	2
明苑中学校	14	10	17	7	34	5	13	2	24	5	2	0	0
開西中学校	9	14	8	4	11	4	7	2	21	2	2	2	1
江部乙中学校	4	4	2	0	11	2	1	2	11	0	0	2	0
計	55	44	44	14	84	30	26	8	80	9	6	5	3
市内進学率	74.8%（普通科37.5%・職業学科37.3%）								25.2%（普通科15.2%・職業学科7.8%・ほか）				
各校入学数	120	81	81	34	200	40	37	11					
市内の割合	46	54.3%		41.9%		72.7%							

(平成19年3月卒業生)

	全 日 制										定時制 (滝川高 校)	工業高専 ・ 聾学 校 養護・高 等専修等 各種	就職 その他
	滝川西高校			滝川高校		滝川工業高校			市外の 公立高校	市外の 私立高校			
	普通	会計ビ ジ 制	情報ビ ジ 制	理数	普通	電子機械	電気	土木					
江陵中学校	20	18	14	4	45	9	4	2	28	3	4	1	3
明苑中学校	17	9	21	8	40	7	1	1	29	13	3	6	1
開西中学校	12	16	8	6	16	4	5	1	13	0	0	0	0
江部乙中学校	4	5	4	0	8	2	0	0	8	0	0	0	0
計	53	48	47	18	109	22	10	4	78	16	7	7	4
市内進学率	73.5%（普通科42.5%・職業学科31%）								26.5% (普通科13.9%・職業学科8.7%・ほか)				
各校入学数	121	81	81	40	240	39	22	9					
市内の割合	44	58.6%		45.4%		51.4%							

(平成18年3月卒業生)

	全 日 制										定時制 (滝川高 校)	工業高専 ・ 聾学 校 養護・高 等専修等 各種	就職 その他
	滝川西高校			滝川高校		滝川工業高校			市外の 公立高校	市外の 私立高校			
	普通	会計ビ ジ 制	情報ビ ジ 制	理数	普通	電子機械	電気	土木					
江陵中学校	17	22	10	3	39	10	12	4	20	5	1	0	2
明苑中学校	11	21	17	7	35	10	7	1	25	8	0	3	1
開西中学校	12	8	14	3	10	5	7	0	23	2	1	2	1
江部乙中学校	2	4	3	2	13	2	2	0	12	0	0	3	0
計	42	55	44	15	97	27	28	5	80	15	2	8	4
市内進学率	74.2%（普通科36.5%・職業学科37.7%）								25.8%（普通科13.7%・職業学科5.9%・ほか）				
各校入学数	120	80	80	40	239	40	37	7					
市内の割合	35	61.9%		40.1%		71.4%							

空知北学区 学区の進学者の状況 (全日制課程)

自学区	1,240
流入	42
流出	60
流出入	-18